

未来の図書館をリードする GLOCAL な知 (地) の拠点づくり

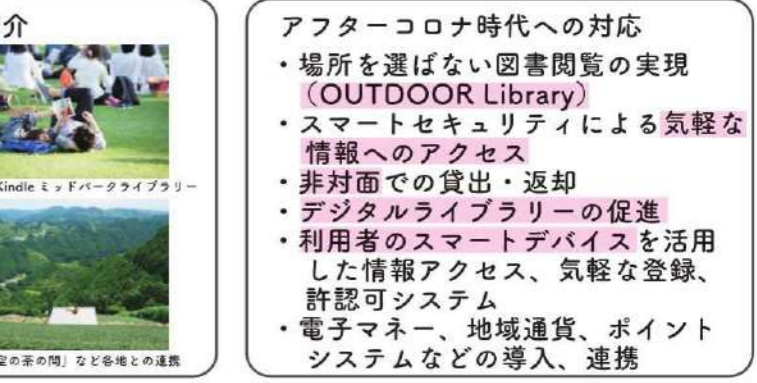
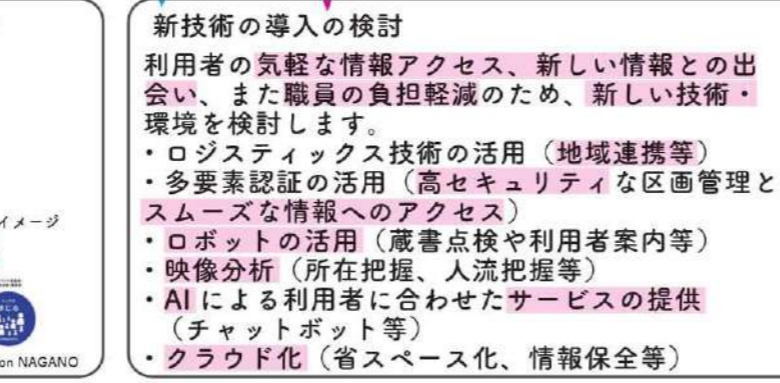
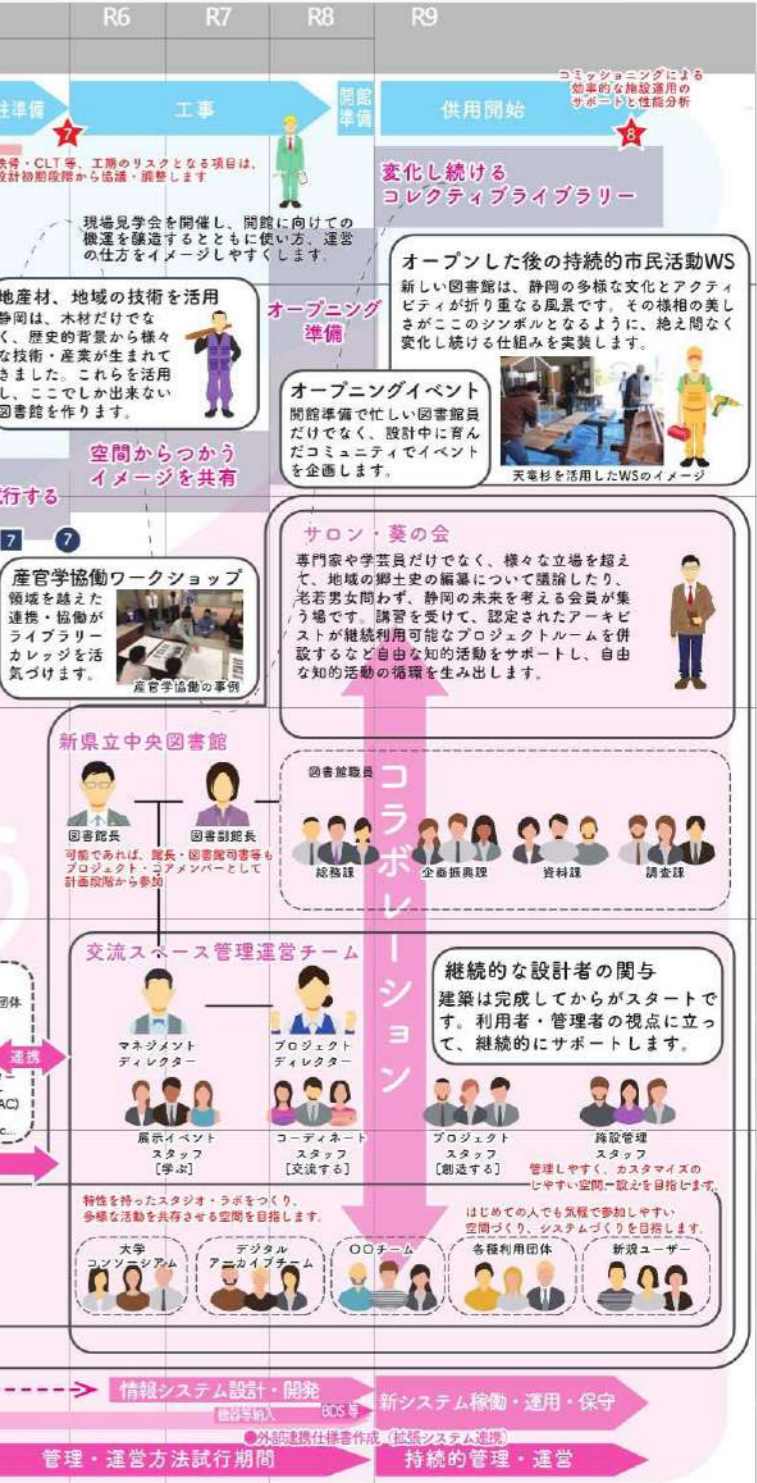
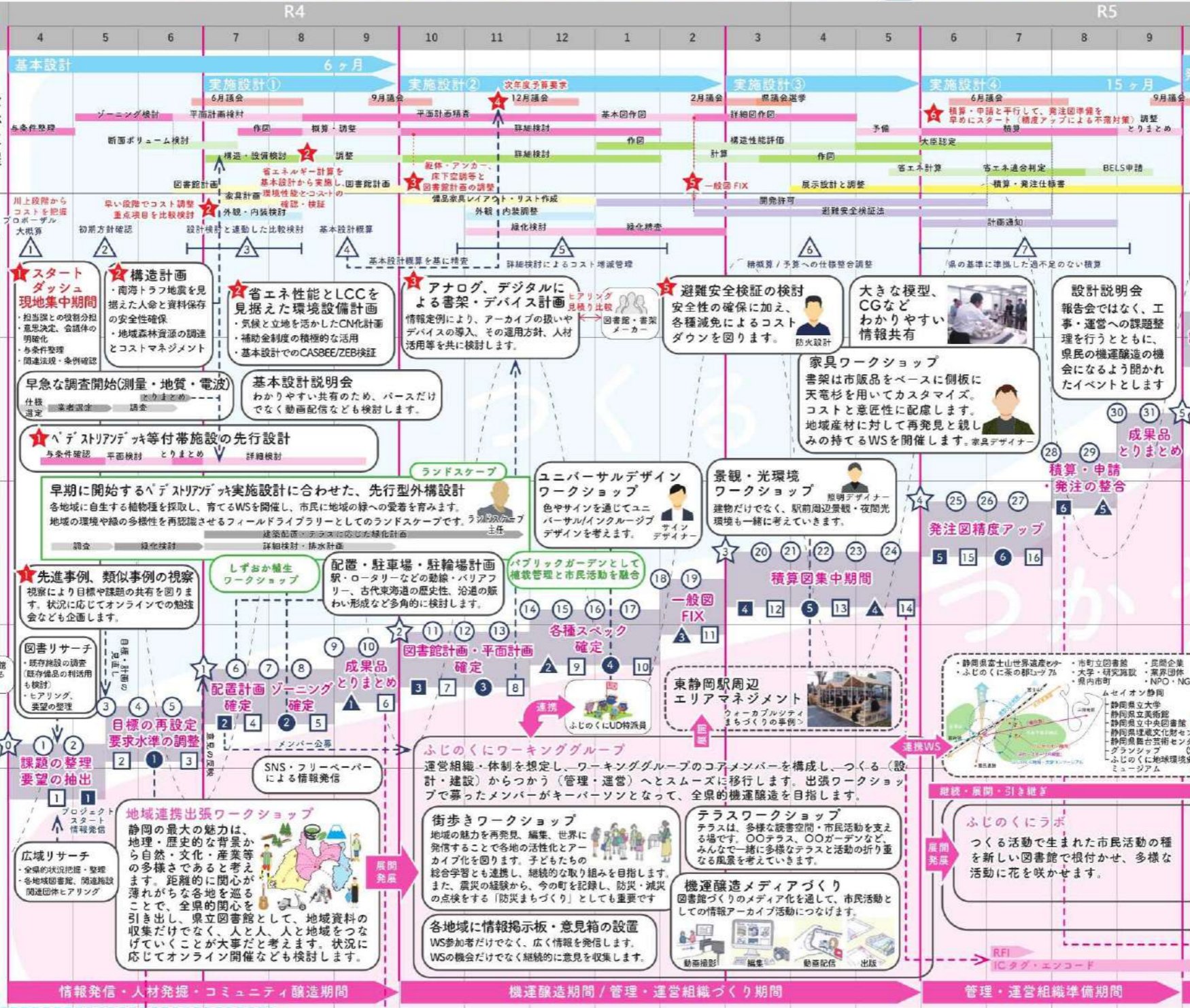
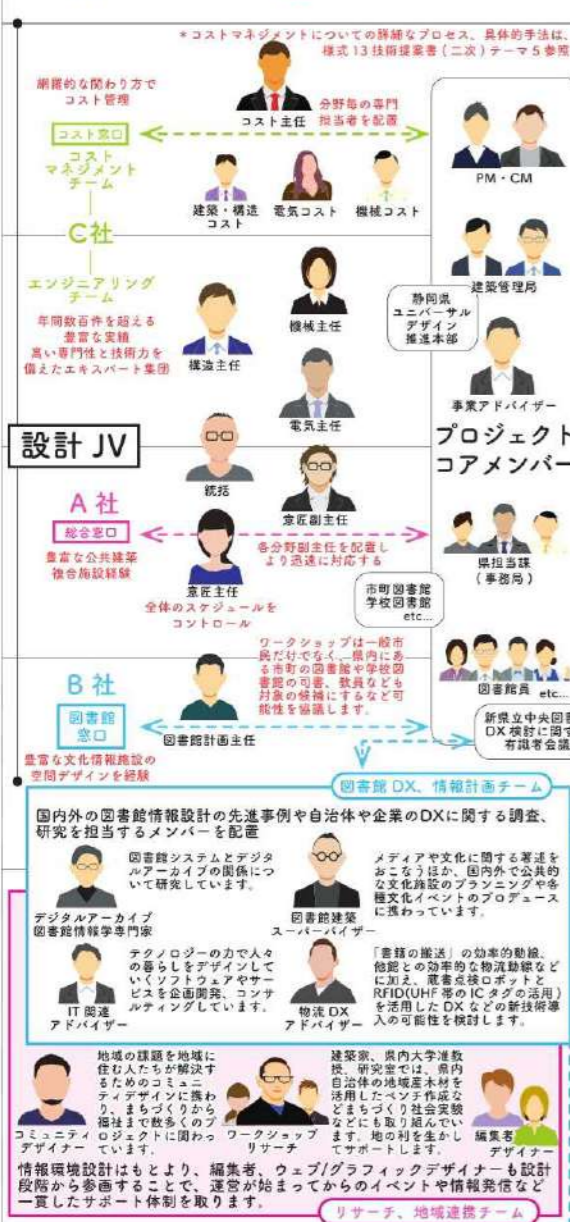
要求水準や予算に合わせ、比較検討を行い、柔軟に変更・対応できるように、細やかな共有の機会を設け、迅速な連携を図ります。また施設づくりを通して、県立図書館を支えるひとづくりを目指し、まちづくり、地域情報ネットワークなど多岐にわたる関係づくりにも発展できる体制、きっかけづくりをおこないます。

- 可能性① 静岡の多様性をアーカイブし文化を創出する地産地消の LOCAL Library
- 可能性② 情報 DX と人の関係を構築し、発信する GLOBAL Library
- 可能性③ 温暖で快適な気候と豊かな自然を生かした OUTDOOR Library
- 課題① 厳しい設計スケジュール、要求水準、総工事費、設計料
- 課題② 情勢に左右されるコスト変動リスク
- 課題③ 地域を超えて連携する組織づくり・仕組みづくりと東静岡まちづくり

- 実-1 丁寧で細やかなヒアリングによる要望の抽出と、地域情報コミュニティの形成
- 実-2 多岐にわたる情報学と最先端技術に精通した情報 DX チーム
- 実-3 地理、気候的特徴を最大化し、快適な環境を実現する各分野のエキスパートからなるチーム
- 実-4 要望や予算、面積、事業性に対応したフレキシブルで明快な建築・設備計画
- 実-5 Design to Cost - 圧倒的なデータ量と分析力を駆使した着実なコスト・マネジメント
- 実-6 つくるとつかうをつなげる - 開館後も県民と一緒に作り上げていくサポート体制

022

ハード(つくる)とソフト(つかう)を同時に考えるパラレルプロセス



1-1 豊かな植生が生み出す変化し続ける外観

各地のワークショップで選定した静岡県・市・町それぞれの地域を代表する植物を、日射や風環境など、各々に適したテラスに配置します。人々が開かれたランドスケープは、図書館の現れ方に自分たちがコミットできるという参加意識を生み出し、手入れをするための定期的な来館を促して、継続的な関係を構築する仕組みとなります。静岡の人々の活動そのものが表出した、変化し続ける豊かな表情を持つ外観を生み出します。



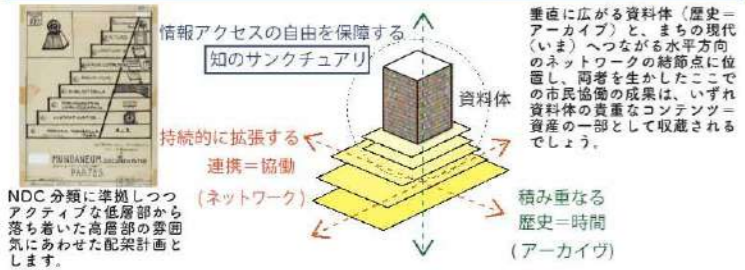
1-2 活動の可能性を広げる多様なテラス

内部機能とテラスが連携することで生まれる多様な活動を、イベント情報としてWEBなどで発信し、人々の参加を促します。音楽テラスでは、ちょっとした演奏会が行われたり、ハーブガーデンで栽培したフレッシュなハーブを活用できるキッチンラボ、富士山を眺めながら朝ヨガ会ができるスポーツ・テラス、ものづくりテラスでは天竜杉を使ったパーゴラをWSで製作し、館内やテラス、さらには、まちなかにも展開するなど、図書館発信の多様なアクティビティがワクワクする風景を創り出します。



《1次提案書：テーマ1 記載項目》

- ①「場の力」を最大化する〈多文化共生拠点としての「知の広場」〉
- ②「点と線、線から面へ広がる」
- ③まちづくりとモビリティの未来へ誘う「陸の玄関口」
- ④ヒューマンスケールのモジュールを更新



図書館建築多文化共生宣言

「図書館の自由に関する宣言」を遵守し、情報アクセスの自由を保証し、図書館の未来に向けてのサービスを持続的に拡張することをめざして、「図書館建築多文化共生宣言」をここに表明します。図書館という公共空間には、「図書館の自由に関する宣言」以外に、情報アクセスを保証し拡張するメルクマール(指標)として、すくなくともふたつ蓄積されてきました。ひとつは歴史(アーカイブ)、もうひとつは連携(ネットワーク)です。持続可能な社会との共生を念頭に、アーカイブとネットワークを実施しアクセシビリティを高める図書館建築のあり方を再考すること。それが私たちの「図書館建築多文化共生宣言」です。



1-3 グループから個人まで、多様な活動を受け止める内部空間

多様な活動が街区と繋がる、明るくオープンな1,2階から、知を探究するための上階の比較的クローズな個人空間へとグラデーションに変化する構成です。家具や仕上げには富士宮や天竜の杉・ヒノキなど静岡の木材を積極的に活用し親しみと落ち着きのある空間をつくります。

1-4 多様な情報アクセスを保障する多文化共生拠点 <サンクチュアリとしての図書館>

ネット検索が百科事典に変わるかの様に一般化し、ICT化や感染症対策に伴う社会状況の変化によって、図書館でもオンラインでアクセス可能なデジタル情報化が加速しています。そんな時代だからこそ、長い歴史の中で蓄積されてきた図書資料を手に取り、触れることができる信頼感を備え、「表現の自由」や「知る権利」を保障するために資料を長く保存管理する<サンクチュアリ=保護区>としての図書館の存在がより重要になってきます。個々人がじっくりと資料と自分に向き合うための「静かで落ち着いた書齋のような空間」を上層部に配置します。



1-5 知的好奇心を刺激する<ビブリオスケープ>

当図書館の蔵書は英文庫をはじめとする歴史的貴重書から、行政の発行する様々な統計情報から高度なレベルの専門誌、そしてタウン誌まで極めて多彩です。その圧倒的な資料体のボリュームを視覚的に体験し、知的好奇心を刺激するビブリオスケープを、閉架集密書庫とその周囲を囲む公開書庫によって合理的に創り出します。



1-6 圧倒的な資料体の下(もと)に展開する <ライブラリー・カレッジ>

時代の変化に柔軟に対応し、多様な媒体からの知識・情報の入手、知的交流を活発にする仕掛けに満ちた新しい図書館では、設計時から様々なWSを通じて、このプロジェクトそのものが新たな発見や活動を生み出し、人と人の繋がりを強化していく学びの機会となります。誰にでも開かれた入りやすさ、おおらかで明るく、賑わいに満ちた「協働・学び合いの空間」をグラウンドレベルからつながる低層部に展開します。



2-1 多様な情報アクセスを保障する多文化共生拠点<サンクチュアリとしての図書館>

静岡県立図書館には、国民の「自由と権利」を守る民主主義の礎としての使命に加え、英文庫など極めて貴重な資料体を守り次世代に繋ぐ役割があります。同時に、新しい図書館は広く県域の人たちの生涯学習の場、多世代が集う交流拠点として、豊かな外部空間を有する<ライブラリー・カレッジ>です。<資料体>と<ライブラリー・カレッジ>が融合した新県立図書館は、「ふじのくにの知の集積」と「県民のアクティビティ」を象徴するシンボルとして際立つ存在となります。

2-2 “ふじのくに”の文化力を活かした情報拠点

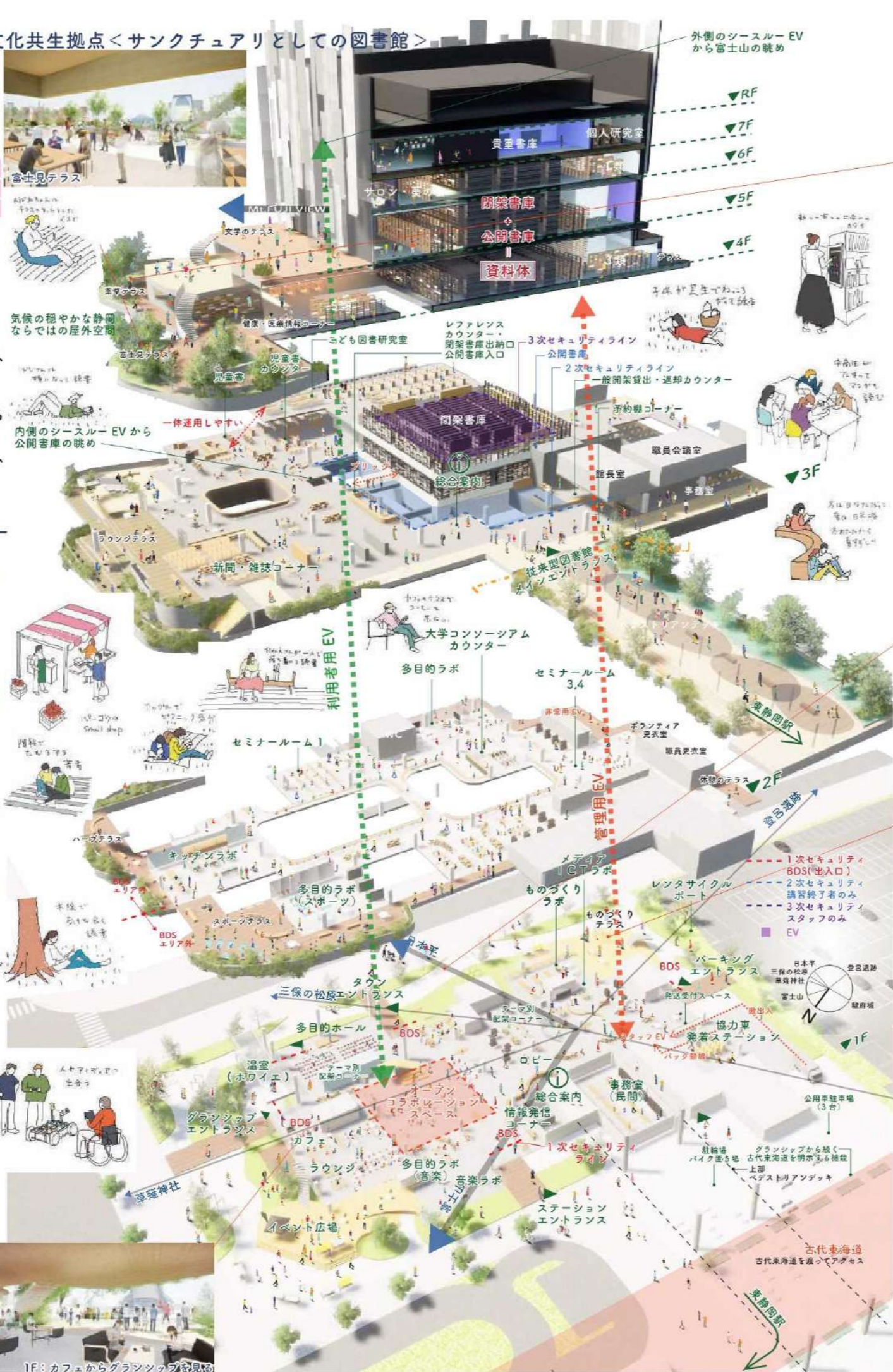
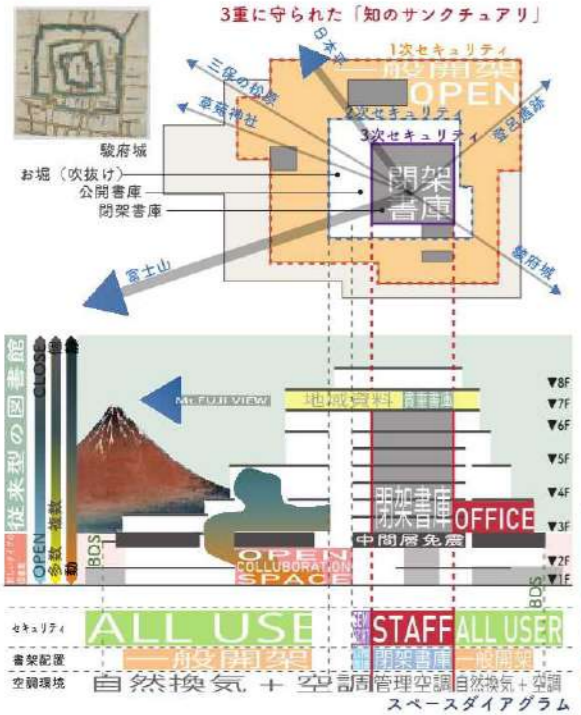
東静岡は、古代東海道の時代から交通の要衝であり、新たな結節点としても重要な場所です。MLA、文化施設、伝統工芸、農産物、演劇、大道芸、静岡ホビー、イベント情報など、“ふじのくに”の産業・文化に関するあらゆる情報を書籍や雑誌に加え、QRコードなどポータルに持ち出せる情報として発信することで、レンタサイクルや公共交通と連動し「ヒト・モノ・情報」の交流拠点、駅直結の「陸の玄関口」として、街めぐりや地域の回遊性を高めるきっかけをつくります。

2-3 生きた情報・フィールドライブラリー

樹木板にQRコードを付し、その植物の来歴やメンテナンス情報、さらには館内の書籍に紐づけるなど、全体を巡ることで静岡の樹木が理解できます。他にも、館内の家具にはデザイナーや材料、つくられた場所の情報や付与したり、各テラスやラボで行われている活動と情報をリンクさせるなど、地域活動や産業まで含めた様々なハード・ソフト・情報を繋げることで、自らの学びを深めることができるフィールドライブラリーです。

2-4 駿府城の城郭・守られる英文庫

中央に位置する<資料体>の最上部には、図書館の象徴となる貴重書庫を配置。その下階には、セキュリティレベルの高い閉架集密書庫を囲う様に公開書庫を配し、講習を受けた人のみが吹き抜けに架かるブリッジを渡りアクセス可能とするなど、同心円状に複数のお堀に守られた駿府城を暗示した計画です。



参加者番号 022
 <1次提案書: テーマ2 記載項目>
 ⑤多様な情報アクセスを保障する多文化共生拠点<サンクチュアリとしての図書館>
 ⑥知的好奇心を刺激する<ビブリオスケープ>
 ⑦圧倒的な資料体の下に展開する<ライブラリー・カレッジ>
 ⑧「意味のイノベーション」を誘発する<サロン・葵の会>
 ⑨最先端のDX技術を活用したライブラリー
 ⑩駿府城の城郭・守られる英文庫

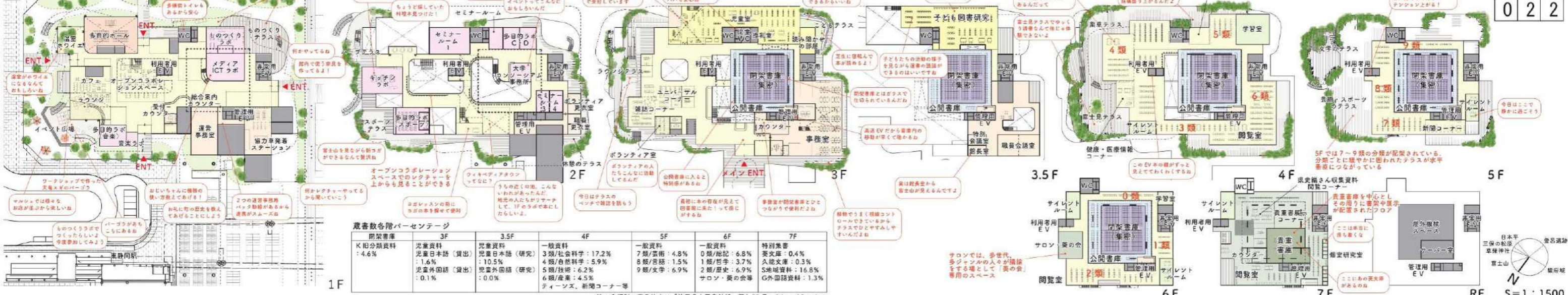
2-5 相互連携を誘発する空間のつながり
 地域情報を掘り起こす、ウィキペディア・タウンのような活動を多世代のグループで展開し、「メディア・ICT」ラボで編集、「ものづくりラボ」でブックレット製作を行い、楽しみながら世代間の情報格差の解消を図るなど、様々な連携を誘発します。

2-6 「意味のイノベーション」を誘発する<サロン・葵の会>
 立場を超えて静岡の未来を考えたり、地域の郷土史の編集について議論したり、中高生から高齢者まで老若男女問わず、静岡県の未来を考える会員が集い、議論し、課題に対してじっくりと向き合う場となるサロン空間です。ある一定期間、特定の議論の拠点として必要な書籍を選び込み継続利用可能なプロジェクトルームを併設するなど、県民の自由な知的活動のシンボルとして、富士山を望む6階に配置します。

2-7 最先端のDX技術を活用したライブラリー
 県立中央図書館では、既にスマートフォンでの本の貸出が始まり「ふじのくにアーカイブ」デジタルデータの充実と利活用も進んでいます。さらに蔵書点検用ロボットの活用や、本棚の背表紙画像をデジタルデータの「仮想本棚」としてオンラインでも本棚を見て選書できる(メタバースによる展開)など、職員の負担軽減と市民サービスへの活用を検討します。静岡がオープンデータとして公開している「VIRTUAL SHIZUOKA 構想」データの活用サポートなど、災害や産業、あらゆる活動に生かせるDX、ICT活用を目指します。様々な理由で来館困難な利用者へのオンラインによるレファレンスサービスや資料利用、他の利用者との交流を行う機会の創出など、実空間と情報空間が融合した学びの場を創出します。



(様式13) 技術提案書(2次) テーマ3・4



3-1 すべての人にあらゆる支援を

情報へのアクセシビリティは基本的な人権であり、高齢者や障がい者、乳幼児を連れて人や外国人など誰もが利用しやすい図書館を目指すためには、建築、サイン、サービス、機器類のアクセシビリティ機能や提供するコンテンツも視野に入れた総合的な計画が重要です。大切なのは、来館者だけでなく、来館することができない人や、働く職員まで包含した、すべての人にとって最適な環境とは何かを模索し続けることです。設計段階から、当事者(リードユーザー)の方々とワークショップを行い、すべての人にあらゆる支援を行える図書館の在り方を共に考え続けます。

3-2 災害時の被災資料レスキュー拠点

災害時には、全県域図書館からの被災資料レスキュー受け入れ・復旧の救済拠点となります。下層階は、地下空間を介して内外が連続する一体空間のため、容易に機能変換が可能です。3階の事務諸室は免震層により機能保全され、機動力ある対応が可能です。

3-3 今後100年にわたり活用されるための合理的な計画

当図書館には、英文庫を始め、閉架書庫やデジタルデータを保存するサーバ室など多くの極めて貴重な(資料体)があります。それらを長期保存するために免震構造とし、かつ紫外線や熱負荷などの外的要因の影響を最も受けにくい建築中央部に積層集約した、何重にも守られた、安全で合理的な計画です。

3-4 ワークプレイスとしてのバックヤード

県立図書館職員の業務は専門的な内容から細やかなサービスまで極めて多岐にわたります。職員の方々が日々気持ちよく働きやすい環境、合理的なワークプレイスは、図書館サービスの質向上にも寄与します。障害を持つスタッフも働きやすいようにUDの観点を生かします。

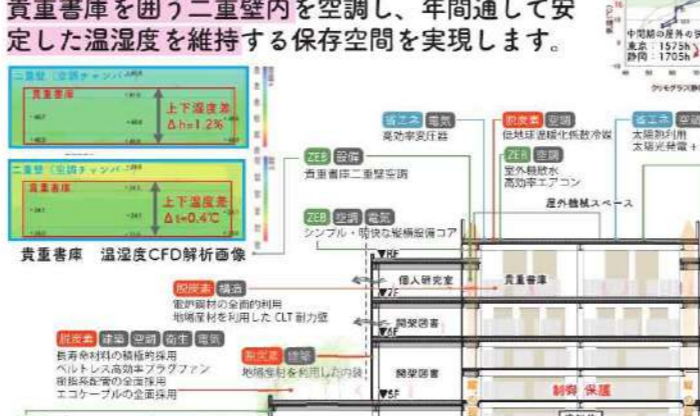
3-5 積層し合理的な動線とした閉架書庫計画

書庫の積層は平面より図書館職員の閉架書庫内での移動効率が良く、エレベーターを高速仕様に変更することで、更なる効率的な作業動線を確保します。

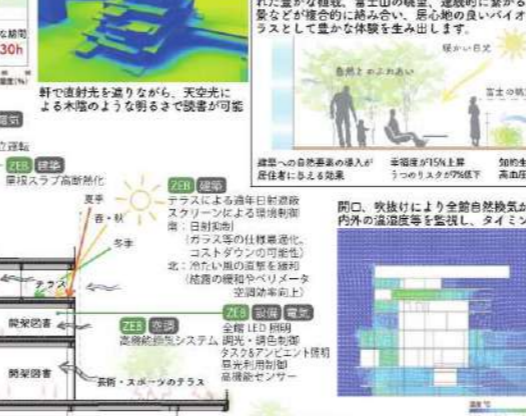
4-1 静岡 CASBEES/ZEB Ready 達成に向けて



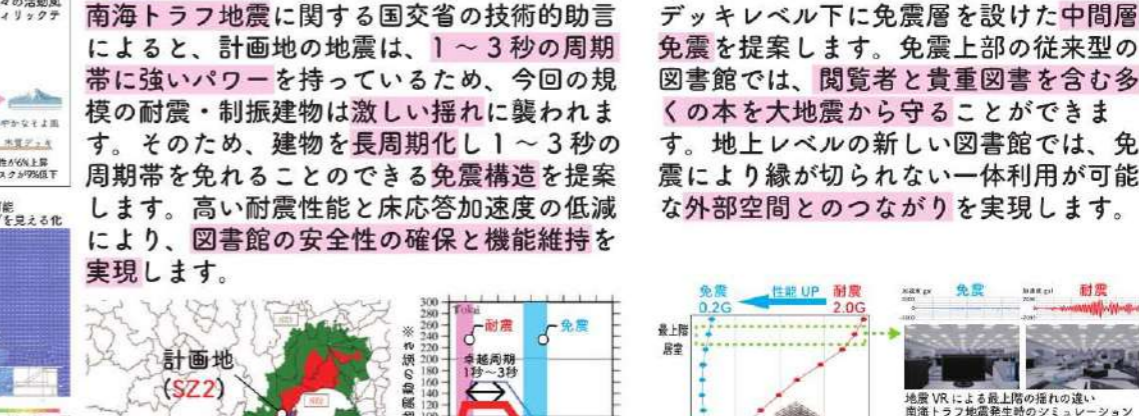
3-6 CFD解析による空調性能検証



3-7 計画地の地震環境と対策提案



機能と統合した中間層免震の計画



4-2 人数・熱負荷・人体リズムに追従する環境可変型空間



4-4 地場産材を最大限活用し土に還す



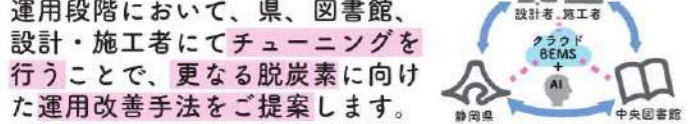
木質バイオマス & ソーラー熱源システム



4-5 県産木材の活用と脱炭素化(免震の副次的効果)



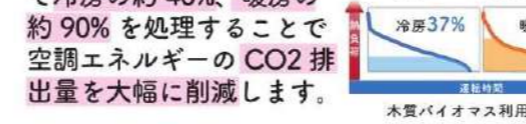
4-3 環境性能分析から運用改善へ



木質バイオマス & ソーラー熱源システム



木質バイオマス & ソーラー熱源システム



木質バイオマス & ソーラー熱源システム



■ 概算工事費内訳書

Table with 2 columns: ベース案 (Base Case) and 金額 (千円、税込) (Amount in 1000 Yen, including tax). Rows include 図書館本体施設整備費 (13,872,100), 建築 (8,551,400), 電気設備 (1,487,200), etc.

Table with 2 columns: 重要検討項目 (Important items for review) and 金額(千円、税込) (Amount in 1000 Yen, including tax). Rows include より豊かなテラス空間の実現 (260,000), より豊かな外構空間の実現 (140,000), etc.

■ 概算算出の手法と考え方

提案内容と目標工事費の整合性を検証するため、類似事例からの類推や補正ではなく、積み上げ方式によるコストモデルを構築して概算工事費の算出・検証を行っています。

① 要求水準や今回提案する計画内容から数量の算出が可能な項目は、数量×想定単価で算出。躯体は構造解析モデルに基づいて歩掛を設定し数量を算出。

② 要求水準や今回提案する計画内容からメーカー見積が可能な項目は、メーカー見積を取得し金額に反映。

③ 現段階ではプランと整合した数量算出が難しい項目は、実績データを参考に歩掛を設定し数量×想定単価で算出。

④ 現段階では数量の設定が難しい項目は、延床面積に対する単価を計画内容を踏まえて設定し算出。

上記により、初期段階のボリュームスタディから、床仕上のグレード調整など細かい変更まで、工事費の増減をリアルタイムに確認することで、事業費全体としてコストと品質が最適なバランスとなるよう検証しています。

※下記の項目は左記の金額に含まれません。カフェ給湯設備、カフェ厨房機器、ガス設備の本管延伸・増設工事、さく井工事の試験ホーリング、水質検査、家具以外の備品工事(厨房機器、デジタルサイネージ、コピー機、PCなど) ※井水処理設備は良質な水質の場合の金額です。 ※ペDESTリアンデッキはすべて建築物とした場合の金額です。

■ 科目別内訳とコストアロケーション

Table with 3 columns: 建築/躯体など (Building/Structure), 金額(千円) (Amount in 1000 Yen), 主な積上げ項目 (Main items). Rows include 直接仮設 (174,200), 土工 (122,200), etc.

Table with 3 columns: 建築/外装 (Building/Exterior), 金額(千円) (Amount in 1000 Yen), 主な積上げ項目 (Main items). Rows include 既製コンクリート (289,300), 防水 (33,600), etc.

Table with 3 columns: 建築/内装 (Building/Interior), 金額(千円) (Amount in 1000 Yen), 主な積上げ項目 (Main items). Rows include 既製コンクリート (43,100), 防水 (25,600), etc.

Table with 3 columns: 電気設備 (Electrical), 金額(千円) (Amount in 1000 Yen), 主な積上げ項目 (Main items). Rows include 電灯設備 (290,300), 動力設備 (138,200), etc.

Table with 3 columns: 空調設備 (HVAC), 金額(千円) (Amount in 1000 Yen), 主な積上げ項目 (Main items). Rows include 空調設備 (872,700), 換気設備 (79,200), etc.

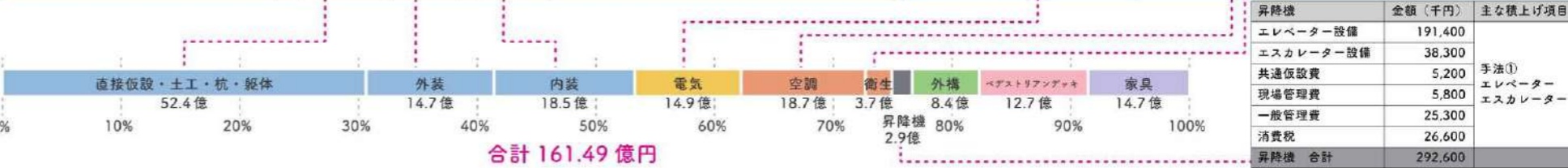
Table with 3 columns: 建築共通 (Building Common), 金額(千円) (Amount in 1000 Yen), 積上げ項目 (Main items). Rows include 共通仮設 (445,600), 現場管理費 (381,400), etc.

Table with 3 columns: 躯体など (Structure, etc.), 外装 (Exterior), 内装 (Interior), 共通費を金額換算 (Common costs converted to amount). Rows include 躯体など (5,235,600), 外装 (1,465,200), etc.

Table with 3 columns: 電気 (Electrical), 空調 (HVAC), 衛生 (Sanitary), 外構 (Exterior), パスタリアンデッキ (Patio), 家具 (Furniture). Rows include 電気 (14.9億), 空調 (18.7億), etc.

Table with 3 columns: 電気設備 合計 (Total Electrical), 金額(千円) (Amount in 1000 Yen), 主な積上げ項目 (Main items). Rows include 電気設備 合計 (1,487,200), 衛生設備 合計 (369,600), etc.

Table with 3 columns: 衛生設備 (Sanitary), 金額(千円) (Amount in 1000 Yen), 主な積上げ項目 (Main items). Rows include 衛生器具設備 (23,200), 給水設備 (75,600), etc.



5-2 コスト変動要因を的確に抽出し、設計の進捗に伴い生じるリスクにも早期に対処

コストを決定する要因は、①敷地条件、②設計内容、③発注条件、④建設市況の4つに分解できます。4つの要因に対し、以下のようアプローチします。

Table with 2 columns: コスト変動要因 (Cost fluctuation factors) and アプローチ方法 (Approach methods). Rows include ①敷地条件, ②設計内容, ③発注条件, ④建設市況.

Point 建物の骨格はコストインパクトが大きく、変更による手戻りも大きいため初期段階から綿密な比較検討を実施しています。

Diagram comparing three structural systems: 耐震構造 (Seismic structure), 基礎免震構造 (Base isolation structure), and 中間層免震構造 (Intermediate floor isolation structure). It details how each system affects seismic resistance, space freedom, and cost.

Point 外装・内装・外構の仕上材料などコストの分配を吟味

Diagram showing the relationship between exterior design/cost and glazing ratio. It highlights the benefits of using high-performance glazing and standard products to reduce costs.

Diagram showing the relationship between exterior design/cost and the use of standard products. It lists ways to reduce costs, such as omitting unnecessary equipment and minimizing wall thickness.

Point 全面緑化ではなく選択緑化・時間軸を含めて生育をコントロール

Diagram illustrating selective greening and controlling growth over time. It shows how to use different types of plants and timing to manage the overall greenery and its impact on the building's environment.

Point グラデュエーションな木質化・内装材の分布

Diagram showing the distribution of wood and interior materials. It emphasizes creating a gradual transition from wood to other materials to enhance the building's atmosphere and reduce costs.

Point 維持管理・更新にも配慮した合理的コア

Diagram showing a rational core design for maintenance and renovation. It focuses on creating a core that is easy to access and maintain, reducing long-term costs.

Point 適切な設備容量の設定

Diagram showing the setting of appropriate equipment capacity. It compares traditional design with a more data-driven approach to ensure equipment is neither oversized nor undersized.

設計時の選定能力が過大にならないよう豊富な運用データの知見を生かし過不足ない容量の設備計画を行います。

5-3 設計段階でデザイン、性能、コストをマネジメントするパラレルプロセス

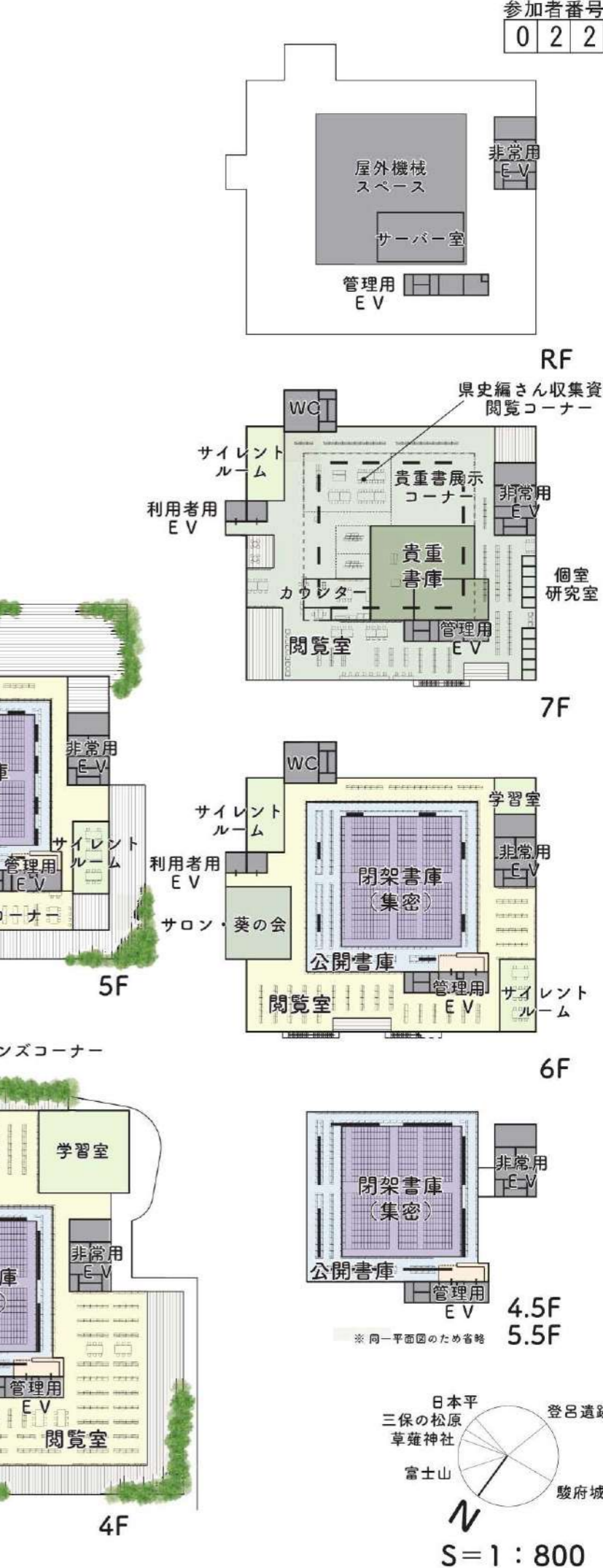
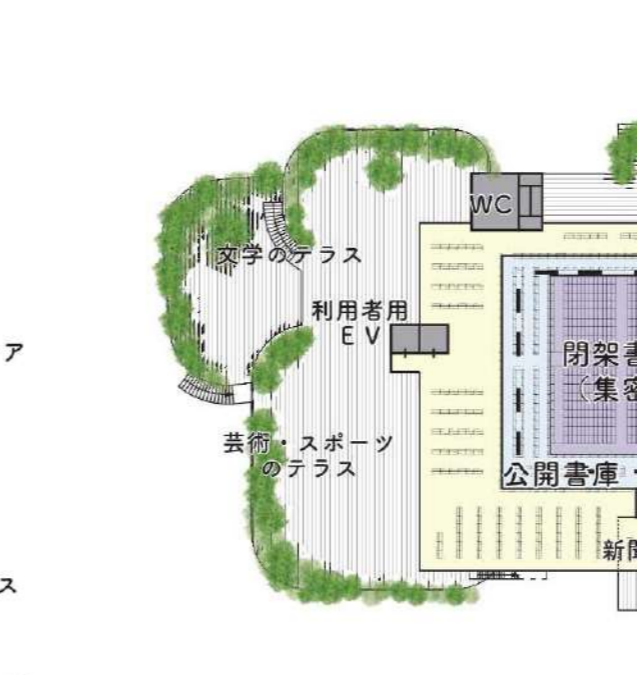
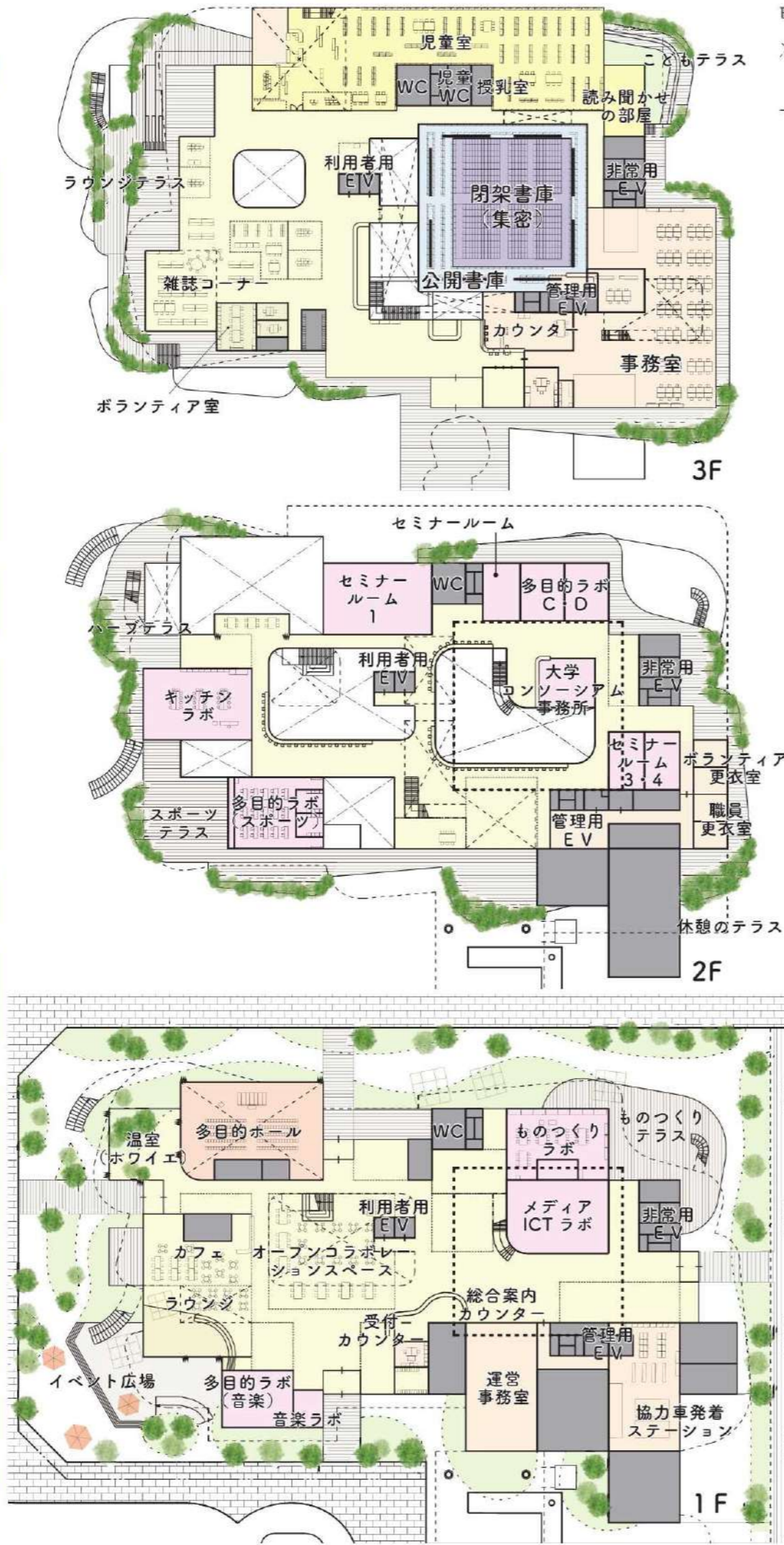
Timeline diagram showing the parallel process of design, performance, and cost management. It maps out key milestones from R3 to R6, including conceptual design, basic design, and implementation design.

Table detailing the parallel process for facade, body, exterior, interior, and equipment. It outlines the goals and key actions for each stage, such as 'Check the content of the request level' for the facade and 'Check the equipment capacity' for the equipment.

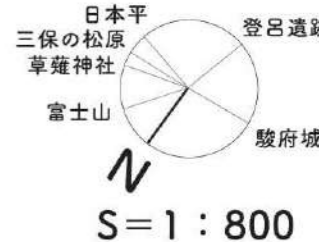


(様式14) 技術提案用途別面積表 (2次)

用途別面積表	技術提案面積 (㎡)
エリア・スペース・諸室	
サービスエリア	9,199
一般閲覧スペース	3,411
書架/閲覧室	2,778
各一般コナ(カク/除く)	344
カウンター	131
対面相談室	23
その他	135
児童書関連	1,329
児童室	644
読み聞かせの部屋	63
子ども図書研究室	537
カウンター	44
その他	41
地域資料スペース	955
書架/閲覧室	662
貴重書展示コーナー	127
歴史文化情報センター	108
カウンター	58
学びの活動スペース	507
学習室	247
個室研究室	30
サイレントルーム	229
交流スペース	2,662
情報発信コーナー	190
テーマ別配架コーナー	485
各種ラボ	861
オープンコホレーションスペース	300
多目的ホール	413
セミナールーム	304
受付カウンター	49
大学コンソーシアム相談窓口	60
カフェ・ラウンジ	335
カフェ	167
ラウンジ	168
保存エリア	4,379
公開書庫	1,859
閉架書庫	2,302
貴重書庫	154
保存処理室	65
管理・共有エリア	6,919
直営管理	1,332
館長室	33
特別会議室	33
事務室	532
作業室	49
印刷室	30
協力車発着ステーション	188
サーバー室	89
給湯室	9
休憩室・更衣室	80
ボランティア室	41
倉庫・備品室	110
職員用会議室	139
民間管理	462
運営事務室	198
備品倉庫	263
共有機能	5,125
廊下、トイレ、機械室等	5,125
合計	20,497



参加者番号
022



S=1:800